

# ウソとサクラの花芽被害

## 1 昔から親しまれてきた鳥

皆さんはウソという名前の小鳥をご存じでしょうか。スズメくらいの大きさで、灰色の体に頭、翼と尾羽が黒く腰は白、雄は頬から喉の部分が赤い可愛らしい鳥です。ウソとはおもしろい名前ですが、鳴き声がフイー、フイーと口笛によく似ているので、口笛の古語である「うそ」に由来しているといわれています。

国内では亜高山帯で繁殖する（亜種ウソ）ほか、極東ロシアや中国東北部で繁殖し冬に渡ってくるもの（雄の胸から腹が桃色の亜種アカウソ）がいます。県内でもウソが岩手山、八幡平や早池峰山などで繁殖していますが、冬も標高の低い場所にはあまり来ないようなので、冬に市街地の公園などで見られるものも多くはアカウソであると思われます。昔から幸運を招く鳥とされ、福岡の太宰府や東京の亀戸の天満宮などでは、木彫りのウソを交換する鸞替

（うそかえ…前年の凶を嘘にして当年の吉に替える）という行事が行われています。また、「鸞」という字が「學…学の旧字体」という字に似ているので、学業成就のおめでたい鳥としても親しまれてきました。

## 2 好物はサクラの花芽

このウソですが、困ったことにサクラの花芽が好物で、1月から3月にかけて数羽から10羽くらいの群れで飛来して食べてしまいます（写真1）。

特に、各地のサクラの名所に多く植えられているソメイヨシノを好みます。くちばしで花芽をつまみとり、中にある将来花になる部分だけを食べます（写真2）。残りの鱗片が木の下に落下しているのです、これによりウソに食べられたのだということがわかります（写真3）。葉芽はほとんど食べないので、木が枯れてしまうようなことはありません。



写真1 サクラの花芽を食べるウソ



写真2 ウソが食べる部位（○で囲んだ部分）

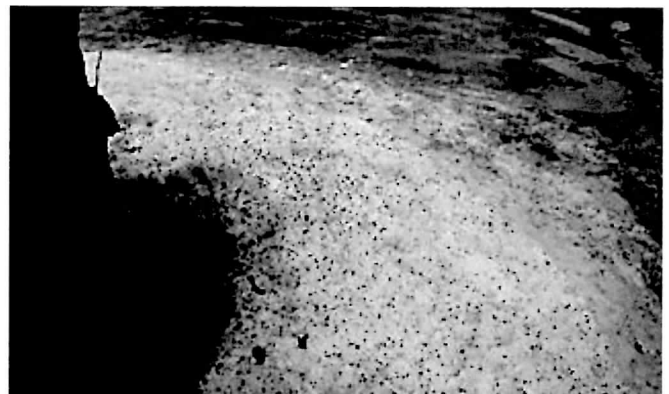


写真3 木の根元に散乱する花芽の鱗片

## 3 寂しいお花見となった昨春のサクラの名所

何年かに一度、大陸から多数のアカウソが飛来して寂しいお花見になることがあります。昨春もサクラの花芽がウソに食べられて着花量が少ないという報告が全国各地からありました。

県内からも同様の報告があったことから、昨春の県内のサクラの着花状況がどうであったかを、市町村や観光協会などから教えていただきました。その結果、県北と県央エリアのソメイヨシノとエドヒガン、

県南エリアの山沿いの地域のソメイヨシノで着花量の少ないケースが多かったこと、一方、沿岸エリアでは平年並の着花量だったことがわかりました(図1)。詳しくは、森林総合研究所東北支所年報54号をご覧ください。

これまでの例では、ウソが多数飛来した年の翌年はあまり飛来しないので、今春はお花見を楽しめた所が多かったと思います。ウソによりサクラの着花量が少ないと話題になったのは、昨春以前では平成19年の春でしたが、どのような条件の年にアカウソが多数飛来して大きな被害を与えるのかについてはわかっていないので、これから明らかにしていく必要があります。

#### 4 どのようなサクラが被害を受けやすいか

サクラの種類や品種によってウソに食べられやすいものとそうではないものがあります。

県内に自生する種類では、エドヒガンが食べられやすく、オオヤマザクラ(別名エゾヤマザクラ、ベニヤマザクラ)とカスミザクラはあまり食べられません。

先にも述べましたが、ソメイヨシノはもつとも食べられやすく、ヤエ

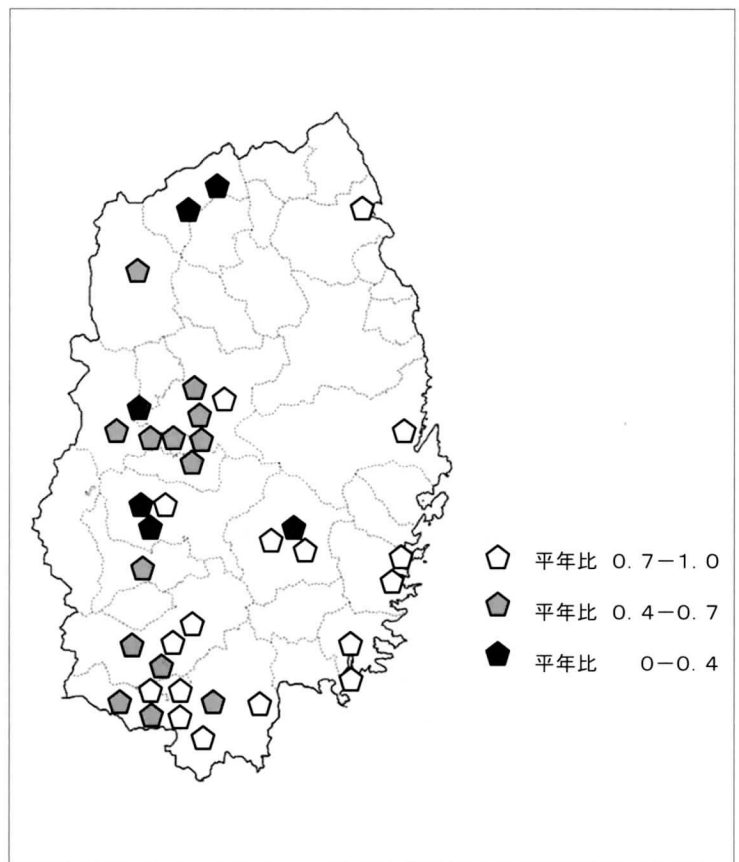


図1 平成25年春のサクラの着花状況

ベニシダレ(エドヒガンの栽培品種)やカンザン(八重桜の代表品種)は

通常の年はあまり食べられないのですが、ウソの飛来が多い年には食べられてしまうことがあります。

また、同じ種類や品種でも植えられている場所によって食べられやすさに違いがあります。食べられやすいのは、ウソが身を隠すことが出来る針葉樹の近くや、人通りが少ない場所に植えられたものです。

#### 5 被害を回避するには

ウソに食べられやすいソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラ(伊豆諸島、伊豆半島や房総半島に分布)を交配して江戸時代に作出された栽培品種ですが、それまでの人々はヤマザクラ(関東以西に分布)のお花見を楽しんでいたようです。

新たにサクラを植えたり植え替えたるときには、ソメイヨシノばかりではなく、それ以外の種類や品種も取り混ぜることで、ウソが多い年もお花見を楽しむことが出来る

思います。

また、ウソはあまり人を恐れない鳥ですが、やはり人通りの多い場所は好まないようなので、ウソが飛来する時期には頻繁に見回りを行うことが被害軽減に有効だと思います。最近では、バードウォッチングを楽しむ人も増えてきたので、サクラの名所ではウソの飛来状況を案内することで、冬でもこれらの人々で賑わうようになるのではないのでしょうか。

森林総合研究所東北支所

鈴木祥悟

019(641)2150



写真4 亀戸天神社の鶯の碑